

論壇

機能集積で税収増も

コンパクト・アンド・ネットワークという表現をご存じだろうか。政府が国土計画を考える際に、最近よく使う表現である。

コンパクトとは、都市の多くの機能ができるだけ狭い地域に集約されるといふことだ。徒歩、あるいは公共交通機関を利用して、生活の多くが完結するような街の姿を表現したものだ。住宅、商業施設、公共機関、病院などが隣接しており、徒歩、公共交通機関の利

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

用だけで生活が成り立つ街の姿である。

コンパクト・シティーを指した街づくりが進んでいる事例が全国にある。富山市はコンパクト・シティーに熱心に取り組んでいる事例としてよく取り上げられ

入が増えて、コンパクト化のための政策費用を支える結果になって

東日本大震災の津波で破壊され、12月10日に再開した常磐線の山下という駅に行ってきた。福島県との県境近くの宮城県山元町と

街をコンパクトにする意義

街の中にライトレールと呼ばれる軽量の都市型鉄道を入れて、JRの富山駅を起点にしてコンパクトな集積化を進めようとしている。市長の話によると、こうした取り組みのおかげで中心地への集積が進み、固定資産税の収

いうところにある。このあたりは常磐線の軌道に移し、駅を新築するという大規模な復旧工事となったが、同時に駅の周辺に街の主要な機能を集中させたコンパクト・シティーを目指している。山元町は人口1万人強の小さな

街だが、駅の周囲に新たな街ができてきた。徒歩圏の中に、住宅、商業施設、学校などが集められている。徒歩でほとんどの生活が成り立つようになっている。

他地域との連携重要

人口減少社会になって、都市の構造の見直しが求められている。無秩序に広がった街ではなく、多くの機能が狭い範囲に集中するよ

そしてコンパクト化が進めば、ネットワークが重要となる。他の地域とのつながりが求められるのだ。富山がコンパクト・アンド・ネットワークの事例として注目される理由の一つは、北陸新幹線の開通があるだろう。山元町の街づくりも、仙台と40分程度でつながる常磐線の存在が大きい。他の地域とつながり方で機能補完が進むからこそ、街をコンパクトにする意味も大きくなるのだ。静岡県の街づくりについても、コンパクト・アンド・ネットワークという視点を通すと、いろいろな課題が見えてくるのではないだろうか。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。